

みんなの 町議会

 神石高原町

第42号

平成27年4月15日



いっぱい
勉強しようね!

- **主な事業をピックアップ** 4
- **町政のここを聞く**10
- **こんなことが決まったよ**19

平成27年度 予算
一般会計

93億4000万円

挑戦の

持続可能な新たな農村

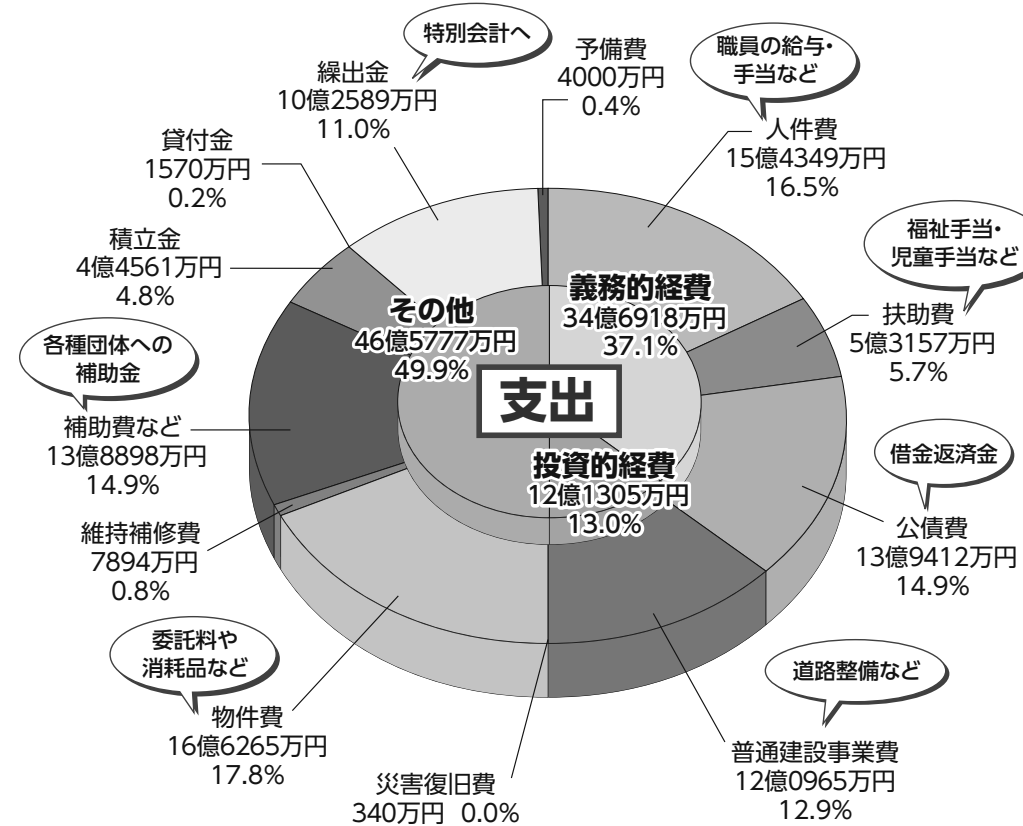
まち

社会の構築

3月定例会

3月定例会は、3月4日から20日まで開かれました。
町長が施政方針を述べた後、提出された平成27年度当初予算など、84議案を慎重審議した結果、いずれも原案どおり可決しました。
一般質問には9人の議員が、町政の課題についていただきました。

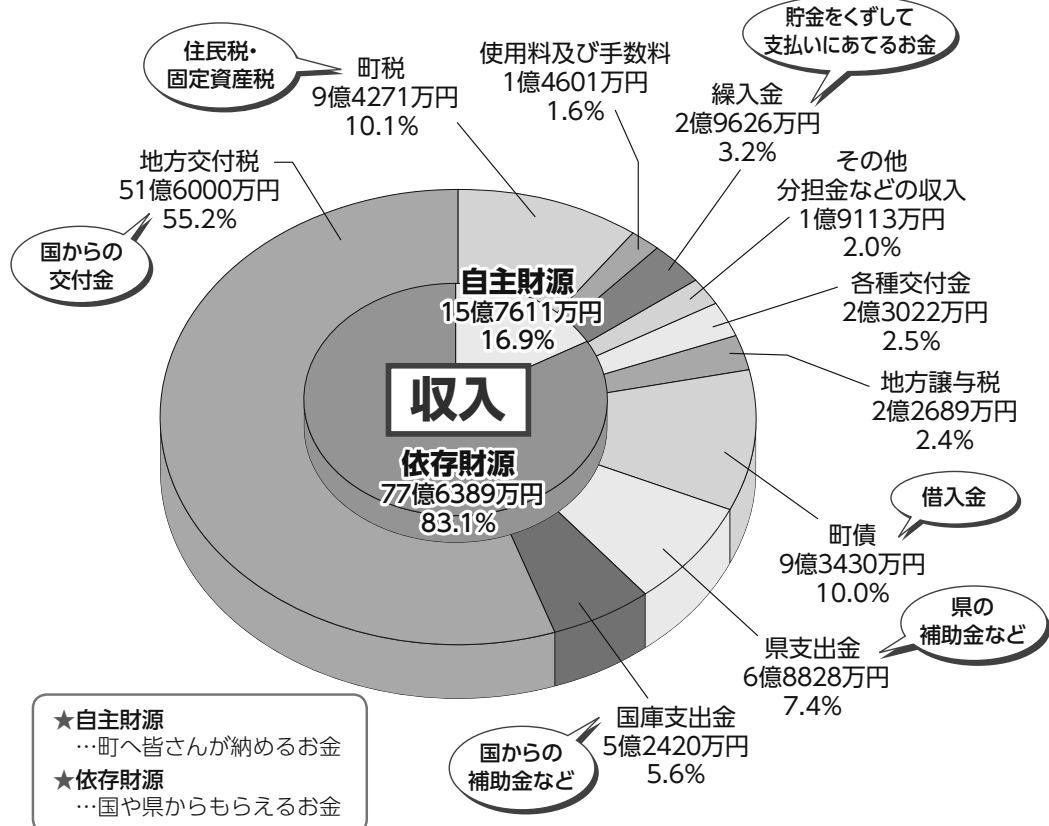
支出



借金返済金の減少

義務的経費は、人件費・公債費などが前年度より減少となっている。投資的経費は、来見小学校大規模改修工事などに着手し、普通建設事業が大幅に増加している。

収入



地方創生元年予算
総額は93億4000万円で、前年度より1億2000万円、率にして1.3%増の予算となっている。

●会計別予算総括表

単位: 万円・% (四捨五入)

会計名	H26年度 当初予算額	H27年度 当初予算額	比較		
			増減額	前年比	
一般会計	92億2000	93億4000	1億2000	1.30	
特別会計	国民健康保険特別会計	11億4390	12億5380	1億0990	9.61
	事業勘定	11億4000	12億5000	1億1000	9.65
	診療施設勘定	390	380	▲10	▲2.56
	後期高齢者医療特別会計	3億9640	4億0400	760	1.92
	介護保険特別会計	19億3380	18億9450	▲3930	▲2.03
	保険事業勘定	19億1680	18億7730	▲3950	▲2.06
	介護サービス事業勘定	1700	1720	20	1.18
	簡易水道事業特別会計	2億0000	2億5100	5100	25.50
	飲料水供給施設事業特別会計	3940	3940	0	0.00
	農業集落排水事業特別会計	2億5740	2億5150	▲590	▲2.29
分収育林事業特別会計	10	5	▲5	▲50.00	
総合開発事業特別会計	5210	2840	▲2370	▲45.49	
特別会計計	40億2310	41億2265	9955	2.47	
病院事業会計	4億5131	2億9711	▲1億5420	▲34.17	
合計	136億9441	137億5976	6535	0.48	

平成27年度 施政方針

新たな協働のまちづくりを深化させ、地域創生を図ることを第一の目標とし、知恵を出し地域力の更なる向上を目指す。

スローガンとして【挑戦のまち神石高原町】を掲げ、地方創生元年予算と位置付け、持続可能な新たな農村社会の構築にむけ、7項目の最重要施策の実現に向け取り組む。

1. 雇用の創出及び商工業の発展
2. 地域資源の活用
3. 定住者確保
4. 地域活性化支援
5. 教育環境の充実
6. 高齢者の健康寿命の増進
7. 備後圏域連携中枢都市の推進

急速な少子高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけ、住み良い地域づくりなどを実現するために、就業の機会を創出させる施策や仕組みづくりなど、魅力あふれる「まち・ひと・しごとづくり」の実現に向け取り組む。

平成27年度 主な事業

拡 充



有害鳥獣対策
2277万円 (90万円増)



油木高校支援
690万円 (90万円増)



飼料作物用機械導入
2887万円 (1704万円増)

をピックアップ

新 規



来見小学校大規模改修工事
8000万円



来見堆肥センター改修
7543万円



星の里いせき交流拠点整備
2030万円

まち・ひと・しごと

創生事業 繰越



ガソリン購入者に商品券贈呈
(町内のガソリンスタンドで購入)
700万円



プレミアム商品券
子ども一人(18歳以下)に
プレミアム率40%の商品券を発行
600万円



子ども医療費助成
18歳まで拡充
1400万円



不妊治療の助成
体外受精・顕微授精や男性不妊治療
930万円



予算特別委員会
委員長報告(抜粋)

橋本輝久 委員長

平成27年度神石高原町一般会計予算や8特別会計予算及び病院事業会計予算の10案件にわたり、活発な委員質疑による審査を行った。全議案とも全委員の賛成により、原案のとおり承認すべきものと決定した。
人口減少対策など主事業は、本年度予算のほか国の経済対策交付金を活用した繰越予算とあわせて、地方創生事業に取り組む強い姿勢を感じる。
公債費の減少を評価
公債費の減少は、起債抑制や繰り上げ償還の効果があらわれていると評価する。
安全に早期に完成
生活基盤の改善、教育環境整備事業は不可欠事業であり、綿密な計画により、安全に早期完成を目指すこと。
組織編成の検討
協働支援センター(仮称)の組織編成には、細部にわたりあらゆる角度から検討すべきである。
教育行政の充実
新教育委員会制度のもと、教育長は首長との連携を密にし、教育行政の充実に取り組まれない。
地方創生総合戦略の制定
【まち・ひと・しごと地方創生総合戦略】の策定委員は、多様な人材を選定し、積極的な取り組みを期待する。



どうぞ食べて(地域おこし協力隊の活動)

まちづくり推進課

協力隊の任期は

横山委員 自治振興会によつては、協力隊の存在が大きく、任期終了後に不安をもっている。任期を延長することはできないか。
入江まちづくり推進課長 この事業は総務省の事業で任期は3年だ。自治振興会内の活動などをおして自立してほしい。

観光担当は

村上委員 観光ツアー

入江まちづくり推進課長 自治振興会のホームページを活用して、情報発信を充実して行きたい。

ふるさと納税は

木野山委員 自治振興会活動経費の中で、ふるさと納税に対する応援策は。
入江まちづくり推進課長 自治振興会のホームページを活用して、情報発信を充実して行きたい。

産業課

サル用捕獲わな

久保田委員 サル対策で、困りわなの補助限度額が5万円では、広いわなが設置できない。補助額を引き上げは。
柏床産業課長 現在ハウス式のわな4基を設置した。捕獲状況を見て検討する。

ナマズの商品化は

久保田委員 ナマズの商品化に向けた町の支援体制は。
柏床産業課長 稚魚から成魚への過程で共食いが多く育たないので、しばらく経過を観察する。

苗の確保

松本委員 飼料米の生産について、個人農家では、苗が確保できない。

予算はどうなってるん

総務課

ふれあい号は

久保田委員 ふれあい号の利用者が家の近くで乗り降りできるようにする。各地区の中心地での乗り降りはできないか。
前原総務課長 時間が許す範囲内で運行し、利便性が高いものにする。

防災訓練は

木野山委員 デジタル化を契機に町の防災訓練を実施したらどうか。
前原総務課長 訓練費は計上していない。全体での訓練は前向きに検討する。

負担割合は

村上委員 平成27年度に安田出張所に高規格救急車1台と小塚出張所に消防ポンプ自動

車1台が導入されるが、府中市と神石高原町の負担割合は。
前原総務課長 人口と国からの交付金から算定し、府中市31.6%、神石高原町68.4%となる。

緊急物資運搬は

赤木委員 災害時の緊急物資を、業者と協定により行うが、運搬計画などのマニュアルは。
前原総務課長 現在協定先は、NPO法人コマリの災害対策センターである。本町に何かあった際は、必要な物資を番近配送センターから輸送を行う。災害が多発し困難な時は、広島県トラック協会に依頼する。地域が孤立した場合、県の防災ヘリや自衛隊への依頼を県へ要望する。



なかなかむずかしいのお～(脳いきいき教室)

保健課

介護予防教室

松本委員 自宅での介護予防教室へ移行するため、グループづくりとリーダーの養成は。
榊原保健課長 平成27年度に運動指導士を配置して、地域やグループの指導を行う。

建設課

歩道設置計画は

松本委員 三和中学校校入口から、井関方面に向けての歩道の整備計画は。
国重建設課長 県道整備計画で、新規事業と

まち・ひと・しごと創生事業 生活支援スタート

3月 補正

平成26年度 一般会計補正予算

単位：万円（四捨五入）

費目	補正予算	補正後予算	主な内容
議会費	0	9228	
総務費	3519	16億8856	まち・ひと・しごと創生事業 9632
民生費	▲1966	18億3892	後期高齢者医療特別会計繰出経費 ▲911
衛生費	▲5623	11億5782	医療従事者奨学金貸付事業 ▲810
農林水産費	▲1741	8億2614	新規就農者支援事業 ▲270
商工費	▲684	1億6749	雇用促進奨励助成事業 ▲580
土木費	▲3404	6億4361	単独町費町道整備事業 ▲2433
消防費	▲1420	4億4327	非常備消防一般管理経費 ▲570
教育費	▲936	6億5116	保健体育施設管理運営経費 ▲474
災害復旧費	▲81	651	現年発生道路橋りょう災害復旧事業 ▲79
公債費	▲3068	17億9967	長期債利子償還経費 ▲1796
諸支出金	3億8779	11億6784	財政調整基金積立経費 3億9000
予備費	0	4000	
合計	2億3374	105億2326	

特別会計 病院事業会計補正予算

単位：万円（四捨五入）

会計名	3月補正	補正後額	
国民健康保険	事業勘定	1214	11億7095
	診療施設勘定	20	431
後期高齢者医療	▲2096	3億8679	
介護保険事業	保険事業勘定	▲6742	18億9619
	介護サービス事業勘定	0	1853
簡易水道事業	▲1622	2億0575	
飲料水供給施設事業	0	4230	
農業集落排水事業	0	2億6796	
総合開発事業	▲3640	2163	
分収育林事業	0	10	
小計	▲1億2866	40億1451	
病院事業会計	▲2842	5億2598	
合計	▲1億5708	44億7927	

一般会計では、2億3374万円増額され、総額105億2326万円となった。一般会計補正予算の主なもの、長期債元金・利子償還経費3068万円などを減額補正し、神石高原町「まち・ひと・しごと創生事業」9632万円、財政調整基金積立3億9000万円などを増額補正した。特別会計などを含む、全会計の総額は150億253万円となった。



森林セラピーでリフレッシュ（仙養ヶ原）

して歩道の設置が計画されている。

補助金の確保は

赤木委員 小規模崩壊地復旧事業の希望者が多いが、県費補助金の確保に向けての取り組みは。国重建設課長 前年度に計画書を作成し要望を行っている。

環境衛生課

家族葬の対応は **横山委員** 家族葬の需要が増えてくると思いが、対応は。横山環境衛生課長 告別室を利用し対応している。

シャワー室設置は

久保田委員 やすらぎ

苑内のシャワー室設置の検討結果は。

横山環境衛生課長 職員用のシャワー室を使うよう協議している。

学校教育課

大規模改修は

寄定委員 来見小学校校舎の老朽化状況をどう把握し、どのような大規模改修を実施するのか。**石田学校教育課長** 平成25年度、校舎の耐力度調査を実施した。外壁のモルタル・塗装工事などの工事を夏休みに行う。

生涯学習課

三和野球場整備は

木野山委員 三和野球場の長期的な整備計画は。



投げて打って（三和野球場）

早急に建設を

久保田委員 旧神石中学校校舎解体作業中は、トイレが使えない。早急に建設を。**山本生涯学習課長** 仮設トイレを設置する。4月に設計委託し、早急に工事発注する。

山本生涯学習課長 利用者の需要に応じて整備を行っている。平成27年度はバックネットを更新する。**町長** 長期的な整備計画は考えていない。

3月補正質疑

総務課

記念碑の対応は

横尾議員 旧神石中学校の解体工事にもなっており、昨年建立した記念碑への対応は。**前原総務課長** 解体業者や地元住民との話し合いの場を設けて決定する。

まちづくり推進課

新規学卒者に支給

横尾議員 新規学卒者が町内企業に就職する場合、40万円のボーナスを町より支給する内容は。**入江まちづくり推進課長** 30万円が本人で、10万円が会社へ支給される。

新起業者の補助は

村上議員 新規起業者へ、立ち上げ時の財政支援と事業継続のサポートは。

産業課

給付金は

入江まちづくり推進課長 一業者に初期に100万円、専門家サポートへ50万円、創業支援ネットへ1080万円補助する。**村上議員** 新規就農者への給付金は。**吉原課長補佐** 45才までの新規就農者に給付するもので、3月補正で和牛飼育者に75万円給付する予定だ。



モォー焼けたかな（神石牛ブランドスタート）

町政の「こころ」を聞く

質疑の一部を要約してお伝えします

質問時間は、答弁を合わせて一人二時間以内で二問一答方式



片山 元八郎 議員

問 追悼式の計画は

答 厳粛に挙行したい

Q 町長は、施政方針で『戦後70年の節目、戦没者追悼式を行い、心から哀悼の意を捧げ、平和への願いを新たにしたい』と述べられたがその思いとは。

A 私は、神石護国神社の春秋例祭に毎年参拝する。先人の尊い犠牲の上に、今日の平和日本がある。戦没者追悼式が、厳粛かつ盛大に挙行されんことを強く

望む。
斉藤代議士の著書「回顧70年」、松本健一著「評伝斎藤隆夫孤高のパトリオット」を読んだ。2・26事件の熱さめやらぬ昭和11年5月、議会での『肅軍演説』で喝采を浴びた民政党議員である。軍部を一刀両断した演説の感想も併せてつかがう。

A 町長 戦没者追悼式を心を込めて厳粛に挙行したい。

また『肅軍演説』にもう少し周囲が賛同していれば、悲惨な戦争は回避出来たのではないかと思う。

校長講話ブログ削除をどう考える

Q 一宮市内の中学校の校長が「建国記念の日」を前に、朝礼講話をし、その講話をブログに掲載した。市教委から口頭で、断定的な書き方などを注意され削除した。

講話内容は、仁徳天皇は『民のかまどより煙がたちのぼらないのは、貧しくて炊くものがないのではないか。都がこうだから、地方はなおひどいことであろう』と仰せられて3年間、税を免除された。また敗戦直後、昭和天皇は、マッカーサーとの会見で次のように

話された。『今回の戦争の責任はすべて自分にある。私を罰してほしい。国民に多数の餓死者が出る。ぜひ食料援助をお願いしたい。皇室財産の有価証券類を持参した。費用の一部に充ててほしい』と述べられた。講話は、間違っていないと思うがどうか。

A 教育長 他市の事例であり、指導の是非については、コメントは差し控えたい。国に誇りを持つように教育することは必要だ。今回の校長ブログは、学習指導要領に基づいて記述されている。



待ちどおしかった春の訪れ

問 保育所の改修は

答 基本計画を作成したい

Q こばたけ保育所、くるみ保育所の改修・整備は、調査費が計上してあるが、具体的な改善計画は。

A 福祉課長 平成27年度で、老朽化の度合いや必要な経費など調査し、年度内には保育施設の基本計画を作成したい。

A 町長 緊急を要する防災や衛生面などの重大な箇所は、その都度対応する。

Q 平成27年度から、子ども・子育て支援制度が始まり、各自治体で事業計画を策定するようになっていく。国の基準は最低基準だと考えるが、本町の計画は。

A 福祉課長 子ども・子育て支援事業計画は、国や県が定めるべきとしている基準をもとに、平成26年度末までに策定する。

Q 保育所入所希望者に対し、新制度への移行についてのようについて説明したのか。



おやつおいしいね（こばたけ保育所）

Q 役場からの文書を見ると、働いていない家庭の子どもは入所できないと思える。新制度での保育所の入所・延長保育の対応は。

A 福祉課長 国の基準に準じるが、「その他町長が必要と認める者」として柔軟に対応したい。延長保育も従来どおりとする。

Q 延長保育には、就業証明が必要である

が、事情により証明が取れない場合の対応は。

A 福祉課長 原則的には証明が必要だが、柔軟に対応したい。

Q 配慮が必要な子どもへの対応は。

A 福祉課長 健診などで状況把握を行い、保育士が関係機関と連携を取りながら相談支援を行っている。必要な場合は、保育士の増員も行う。

Q 1歳半児と3歳児健診の内容と成果は。

A 保健課長 毎年4回年間計画に沿って実施している。内容は、身体測定、問診、発達相談、栄養相談、歯科検診、内科健診及び指導を行っている。成果は、子どもの発達や親子関係、育児不安に対するサポート体制ができた。

Q 指導が必要な子どもや保護者に対して、指導の仕方について、指導ではないか。また、関係機関との連携は取れているのか。

A 保健課長 十分でなかった点もあるかと思う。今後配慮して取り組みたい。



松本 彰夫 議員



横山 素子 議員

問 介護支援の取り組みは

答 介護予防の充実を図る

Q たとえ認知症になつたとしても、住み慣れた家で生活する事ができるための介護支援が重要だ。高齢者支援事業の課題と今後の取り組みは。
A 町長 課題は介護・医療・福祉関係機関の連携と、介護予防に取組む環境づくりと、自立困難高齢者の住まいの確保だ。新たな取組みとして、認知症地域支援推進委員の配置や健康運動指導士の配置により介護



赤木 俊二 議員

問 生き残りの条件は

答 事業構想や可能性だ

Q 平成27年度施政方針で最重要施策の一つとして、雇用の創出がある。新規の起業に対して予算計上している。
しかし、起業して10年後に残っているのは10%から25%程度といわれている。
予算を有効に活用するためには、持続する企業でなくてはならない。こういった基準で起業家を選定するの

Q 災害時の住民避難命令などの伝達方法は。
A 町長 町長は、町民の生命・身体を

Q 災害時の住民避難命令などの伝達方法は。
A 町長 町長は、町民の生命・身体を

Q 広島の土砂災害をふまえて、住民の命を守るための災害対策は。
A 町長 町内の土石流危険箇所151、急傾斜地崩壊危険箇所776、地すべり危険箇所2ある。ハザードマップを配布しているが、見にくいと指摘があった。平成27年度では、電子版土砂災害ハザードマップを作成し、町のホームページに掲載する予定だ。

Q 緊急メールの活用を
A 町長 子どもたちの安心・安全のため、昨年度の予算で緊急メールのシステムが構築された。PTAの会員が加入対象だが、現在半数程度の加入率であり、ほとんど運用できていない。
Q 多面的な活用方法として家庭教育に関する情報や講座の案内を配信してもよいのではないか。
A 教育長 登録の促進についてはは学校やPTAを通じて呼びかけている。
本来、緊急有事の際の連絡は文書が基本である。緊急時は電話で連絡しており、メールは補助的なものとして考えている。
多面的な利用方法については、現在学校か

Q 近隣市町との連携や支援体制は。
A 町長 町長は、町民の生命・身体を

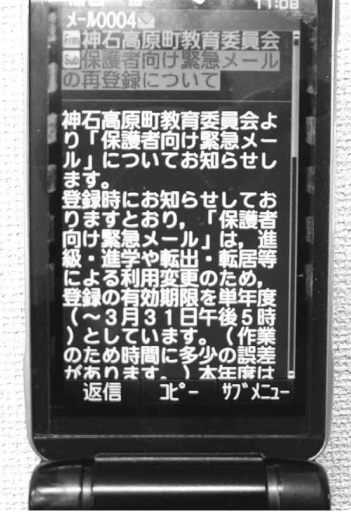
Q 近隣市町との連携や支援体制は。
A 町長 町長は、町民の生命・身体を

Q 非常食や防寒対策用品の備蓄状況は。
A 町長 非常食は備蓄していない。防寒対策用品は、毛布100枚、カセットガスストーブ8台がある。その他に簡易トイレ、ブルーシート、懐中電灯、ポリタンクなどを備蓄している。また、災害時には民間事業者との協定も結んでいる。

Q 非常食や防寒対策用品の備蓄状況は。
A 町長 非常食は備蓄していない。防寒対策用品は、毛布100枚、カセットガスストーブ8台がある。その他に簡易トイレ、ブルーシート、懐中電灯、ポリタンクなどを備蓄している。また、災害時には民間事業者との協定も結んでいる。



できたぞぉ～（神石高原中体育祭）



緊急メール



はっと気づく食の大切さ（食育研修会）

緊急メールの活用を

らの要望を受けて活用内容を検討している。



横尾 正文 議員

問 地方創生への思いは

答 急激な人口減少に歯止め

Q 地方創生総合戦略に賭ける思いと具体的な策定方針は。

A 町長 いちばん問題は急激な人口減少である。それによっていろいろな支障が発生している。これに歯止めをかける対策をしてきたが効果はないに等しい。今後は、各課でいろいろな意見をまとめて、総合戦略会議策定委員会などで、出来るだけ早い時期に策定する。

Q 地方創生は、雇用の創出及び商工業の発展に繋がるものと思うが。

A 町長 平成27年度に策定する総合戦略の中では、国の優遇税制などの支援策なども活用した企業誘致など、中期的な施策を検討したい。

Q 企業誘致のために、今後いちばん大切なことは、トップセールスが大切と思うが。

A 町長 トップセールスは重要である。今後、いろいろな課題はあるが取り組みたい。

Q 企業誘致のためには、企業やチャレンジャー精神のある若者に対して情報発信はどうするのか。

A 町長 情報発信のためには、町職員

Q 現在36床の医療療養病床はどうなるのか。

A 町長 地域医療ビジョンの策定が始まり、その動向を見て、策定委員会で検討する。

Q 神石高原中学校高原寮での「学習サポート」を町全体に拡大できないか。

A 教育長 学習サポート開設の理由は、寮生へ良好な学習習慣を身に付けさせる

Q 職体制が必要と思う。こういったものを組み込める計画策定をしていきたい。



真剣に学習する高原寮の生徒たち (神石高原中学校)

ために、ひとつの指導として開設している。中学校の公営塾は地元で塾を経営している民間塾を圧迫する。また、生徒の送迎や講師の継続確保が困難と思われるが、引き続き研究していきたい。

Q 今後、道徳教育をどのように取り組むのか。

A 教育長 各校の道徳教育推進教師を中心に、全体計画を基に、各学年の道徳の時

Q 病棟の改修は、町と陽生会で協議されている。現在の状況は。

A 町長 4回の策定委員会を実施、病棟の整備は新築移転の方向で考えているが、策定委員会で検討する。

Q 介護事業所へ引き継ぐ。

A 町長 地域医療ビジョンの策定が始まり、その動向を見て、策定委員会で検討する。

Q 医療充実はできないか。

A 町長 保健課のある建物は古くないので、病院内配置は無理である。町立病院と連携会議を開催して、情報共有を行い在宅医療の充実を図っている。

Q 地方総合戦略策定と町の長期計画との整合性は。

A 町長 長期計画と整合性がとれるよう平成27年度見直しをする。新たな交付金の予定だが、確定はしていない。

問 町立病院の改修は

答 策定委員会で検討

Q 介護療養病床を存続してほしいとの要望書が出ているが。

A 町長 病床利用率が低く平成28年度中には廃止し、町内

Q 医薬分業でほとんどの薬局は院外薬局を設置しているが、庄原赤十字病院は以前から院内薬局である。新築移転に合わせ院内薬局にできないか。

A 町長 国の規制改

Q 地方自治体は、総合戦略を策定するよう求められている。町長の思いは。

A 町長 何事も恐れず改革挑戦する。持続可能な新たな農村社会を構築する。

Q 地方総合戦略の策定スケジュールは。

A 町長 平成27年度早々に立ち上げる。国との協議が必要であるが、9月までに仕上げたい。

Q 産休育児休業給付金は、保険加入者には支払われるが、減収になり経済負担は大きい。町独自の経済的支援はできないか。

A 町長 国は平成27年度に経済的支援を行った事業者に対して一部助成を検討しているが、町独自の支援は考えていない。今後商工会など連携して制度の普及に努めたい。

Q 子育て支援の拡充は



久保田 龍泉 議員

Q 在宅医療充実のために病院内に保健課を配置し、医療介護保健福祉情報の共有をはかることにより在宅

Q トマト団地事業の見直しは。

A 町長 県の姿勢が不透明だ。地方創生で県と本格的に協議したい。



町立病院近くの院外薬局



丸山 達夫 議員

問 荒廃農地防止策は

答 国策との連携が必要

Q 米価の下落による荒廃農地増加防止対策は。

A 町長 TPP交渉や直接支払制度の行方の問題がある。政府は主食米を減反し、飼料米・稲に重点を置くとしている。反当10万円程度では儲かる農業は程遠いため、単町費補助は難しい。国策が一番で、再度値下げとなると農業者はつぶれる危機感はある。

Q 市町村での対応は簡単ではなく、国政レベルでの対応が必要である。

A 町長 平成27年度予算でも農地流動化支援事業とし、中核的農家への農地集積を単町費数百万円組んでいる。

Q 町独自の小規模零細農家への補助はできないか。

A 町長 平成27年度予算でも農地流動化支援事業とし、中核的農家への農地集積を単町費数百万円組んでいる。

また、国策による人・農地プランにより担い手農家の活性を図る目的で、国費で10a単位での助成もあり、中核的農家には相当の支援ができていていると思う。しかし小規模零細農家へは、効率的・合理性を考えると補助は難しい。

Q 地方創生元年とし、持続可能な農村社会の構築と施政方針で述べてある。

A 町長 水田の荒廃は深刻に受け止めている。

昨年米価は加算金を含め5千円、作況指数も県北部は93と、米作農家は大幅な収入減の状況と認識している。作付け不能から休耕田となり荒廃農地になると懸念される。

平成27年度は主食用米と飼料米・稲を含め昨年並みの耕作は見込まれている。しかし、主食用米の在庫から推測すると価格下げも懸



今年もはじまった米作り



寄定 秀幸 議員

問 R182号の改良促進を

答 国・県に強く要望

Q 周辺市町との連携には、国・県道整備

A 町長 平成27年度から、連携中枢都市圏構想に基づく「備後圏域ビジョン」により、6市2町が連携した取り組みを行う。

Q 地方創生の取り組みは、自治体間競争だけでなく連携が重要である。周辺市町との連携は。

A 町長 平成27年度から、連携中枢都市圏構想に基づき「備後圏域ビジョン」により、6市2町が連携した取り組みを行う。

Q 20歳代の47・4%が農山漁村へ移住を希望するという内閣府の調査結果がある。U・ターンなど、地方移住の現状と今後の取り組みは。

A 町長 町では、平成22年度から、様々な助成制度や空き家バンク制度に積極的に取り組んでいる。空き家を利用したいという都市住民の登録件数は増加し、300件を超えている。

Q 人口減少への対応は、結婚・妊娠・出産・子育て・教育を切れ目無く包括的に支



改良中の国道182号

Q 環境・平和教育への取り組みは。

A 町長 環境教育は、環境を大切にする心や、責任ある行動などを学校教育活動全般を通して行う。

平和教育では、自他を尊重し合い、我が国の社会や文化に対する理解と愛情を深める。また国際理解や国際協調の視点に立ち、恒久平和を願い国際社会に貢献する人づくりを進める。

④ネウボラ：子育て支援相談や施設

その他の質問
・空き家対策について

援することが重要だ。本町版ネウボラに取り組みべきでは。

A 町長 一貫した子育て包括支援は有効施策だと思う。

国は日本版ネウボラ構想を打ち出し、平成27年度は150市町村での実施を想定している。国の動向を見ながら体制づくりを検討したい。関係機関が横の連携を密に取り組めば本町版ネウボラの構築も可能だ。

新教育行政は

Q 改正地方教育行政法の概要とその目的は。

A 町長 教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ責任の明確化、迅速な危機管理体制や構築、首長との連携強化を図る。

教育長へのチェック機能強化と会議の透明化をし、総合教育会議

を設置するとともに、教育に関する大綱を首長が策定する。

Q 環境・平和教育への取り組みは。

A 町長 環境教育は、環境を大切にする心や、責任ある行動などを学校教育活動全般を通して行う。

平和教育では、自他を尊重し合い、我が国の社会や文化に対する理解と愛情を深める。また国際理解や国際協調の視点に立ち、恒久平和を願い国際社会に貢献する人づくりを進める。

条例制定・改正 こんなことが決まったよ

全会一致

◆神石高原町公共施設総合管理基金条例
施設の維持修繕及び解体等の財源のための積み立てができる。

◆神石高原町包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例
介護保険法に基づき、包括的支援事業を実施するために必要な基準を定める。
(他3件)

条例制定



教育委員会教育長

全会一致

神石高原町教育委員会

教育長 馬屋原 健治

人事

全会一致

◆神石高原町国民健康保険税条例の一部改正
負担増

◆神石高原町介護保険条例の一部改正
負担増

◆神石高原町仙養ヶ原森林公園設置及び管理条例の一部改正
雇用の創出や地域産業の活性化のため入園料200円から500円になる。
(他11件)

条例の一部改正

◆こども医療費支給条例の一部改正
こどもの医療費助成が18歳まで拡大

◆神石高原町営バス料金条例の一部改正
ふれあい号と路線バスを乗り継ぐ必要があるときは、乗り継ぎ券を発行し上限300円で目的地まで行くことができる。

雇用創出は

行政とはマッチしていない。今後は、地元理事と協議していきたい。

Q 主食用米に依存した農業構造からの脱却を行い、今まで取扱いが少なかった飼料用米の利用に粉碎機や保管庫が必要である。

A 産業課長 農業構造の変革の必要性もあると認識している。飼料用米は今年度から取り組むが計量、検査、保管はJAが行う。需要は養豚業者中心であるが引き取り希望数量に達していない。和牛繁殖や肥育には飼料稲の生産拡大が必要であるので機械の増加のための補助を行う。

Q 農業なくして町の存続はない。農業の収益性が改善されないというJ・J・Uターンは難しい。神石牛・ぶどう・トマト・こんにゃくなどの特産加工品による雇用創出に向けた今年度の予算と政策は。

A 産業課長 特産品加工での雇用に関する予算付けはしている。神石牛の加工は高単価であり、出荷量が少ないため困難である。こんにゃくは、加工工場などで雇用に貢献している。今後こんにゃく玉の生産育成が重要である。ピオーネ・トマトも生食中心だが加工品もある。今後は6次産業化が農業の出口になると認識している。

Q 地方創生総合戦略でのソフト事業には多く予算化されているがハード事業の取り組みは。

A 産業課長 ハード事業として乾燥ぶどう・乾燥野菜や米粉がある。米粉スイーツは業者の評判も良く、百彩館で研究している。

Q 都会に向けて、「和牛飼育をしませんか」「野菜を作りませんか」の強い発信が必要では。

A 産業課長 農業の後継者確保は、I・J・Uターンを含めて喫緊の課題である。トマト栽培については情報発信を進める。

問 農協との連携強化を

答 協議していきたい



村上 克朗 議員

Q 農家所得の維持向上のためのブランド化や付加価値向上に、加工・流通の新しい分野が必要だ。農協は未来農業を切り拓く大切な機関であり、地方創生策を共に進めていくことが重要では。

A 町長 町と農協との協議会では、トップの出席がないので本格的な政策協議になっていない。現在の農協は金融が第一で、農業経営指導は少なくなり、農家や



しっかりたべよ神石牛

指定管理者の指定

全会一致
山村開発センター
神石高原まるごと市場
スコラ高原ハープ館
(他34施設)

連携協約

全会一致
福山市と神石高原町との間における連携中枢都市圏形成に係る連携協約
連携中枢都市圏形成において本町と福山市との間で連携協約を締結

工事請負契約

全会一致
工事名 旧神石中校舎・屋内運動場解体工事
請負者 株式会社 後藤組
請負金額 9957万6千円

委員会活動報告

追跡 ありやあどうなったん? 消防団の充実強化のために!

平成26年度に油木方面隊第2分団第4部(忠原)の消防小型ポンプ付積載車配備に伴い、会議室、車両格納庫併設の消防屯所が油木地区花済に整備された。

この屯所は、鉄骨造平屋建て、延べ床面積67・62㎡、消防車両格納庫と約10帖の詰所があり、消防会議や災害時の待機場所として利用される。

このほか、油木方面隊第1分団第4部(岩貝)に消防小型ポンプ付積載車が配備された。

平成27年度は、消防指揮車1



新設された消防屯所(油木地区花済)



導入された消防小型ポンプ付積載車

台の更新、消防デジタル無線整備を予定している。

平成25年12月には、「消防団を中核とした地域防災力の強化に関する法律」が制定され、消防団は地域防災力の中心的な役割を果たすものと位置づけられた。

消防団は「要員動員力、即時対応力、地域密着性」を有しており、地域の安心・安全を確保するためには欠くことのできない組織であり、今後も消防団活動の充実強化のために取り組むことが必要である。

産業建設常任委員会

世羅町の取り組み

■調査日時
平成27年2月6日

■調査事項
世羅町の世羅高原6次産業ネットワークの取り組み

■視察内容
世羅高原6次産業ネットワークは、資源や施設、技術を共有することで所得向上と就業機会の増大を図り、世羅高原の6次産業化を、より効果的に推進することを目的として平成11年7月に設立し、現在73団体ある。

人的支援や補助金による支援など、様々な面からサポートしてきており、「町中を農村公園に」を目標に取り組んでいる。

また、これまでに約3000種類の加工品や農産物も手掛け、昨年8月には、農林水産業みらい基金の助成事業により、3年間で最大約1億1300万円の助成を受け、新たに専従の職員を3人雇用し、さらに6次産業化を推進して

いる。

■6次産業推進の推移
平成9年(6次産業推進協議会発足以前)

売上	8億4700万円
入込客	58万人
平成25年	
売上	23億4000万円
入込客	115万人



せら夢高原市場での研修

総務文教常任委員会

地域おこし協力隊員との意見交換会

平成27年2月27日に、隊員の活動状況や思いを聞いた。

○再生可能なエネルギー導入にむけ、調査研究や地域エネルギーの公益事業体構想案など検討中である。

○空き家を管理する起業の準備を行っている。大学生をサポーターとして、若い知恵を取り入れ、町の活性化を考えている。

○地域行事にも積極的に参加し、地域の人を知ることから始め、何が地域に必要なかを考え、活動に取り入れている。

○今までにない自然を生かした体験活動などで、雇用を生み出そうと検討している。

○自信をもって町民が、神石高原町はいいところ! 毎日楽しいよ! と言える町を目指している。



若い5人の協力隊員

まとめ

以上のような説明が隊員からあり、活発に活動している様子が見え、

自治振興会内の活動などとおし、自らの定住も視野に入れ、起業に積極的に取り組んでいる姿勢に意欲を感じた。

本年も増員予定だが、町の活性化に重要な存在であり、今後の活躍に期待するものだ。

全会 議員発議

神石高原町議会委員会条例の一部改正する条例

委員会に説明のため、出席を求めるものが教育委員長から教育長になった。

提案者 神石高原町議会議員 橋本輝久

賛成者 神石高原町議会議員 久保田龍泉

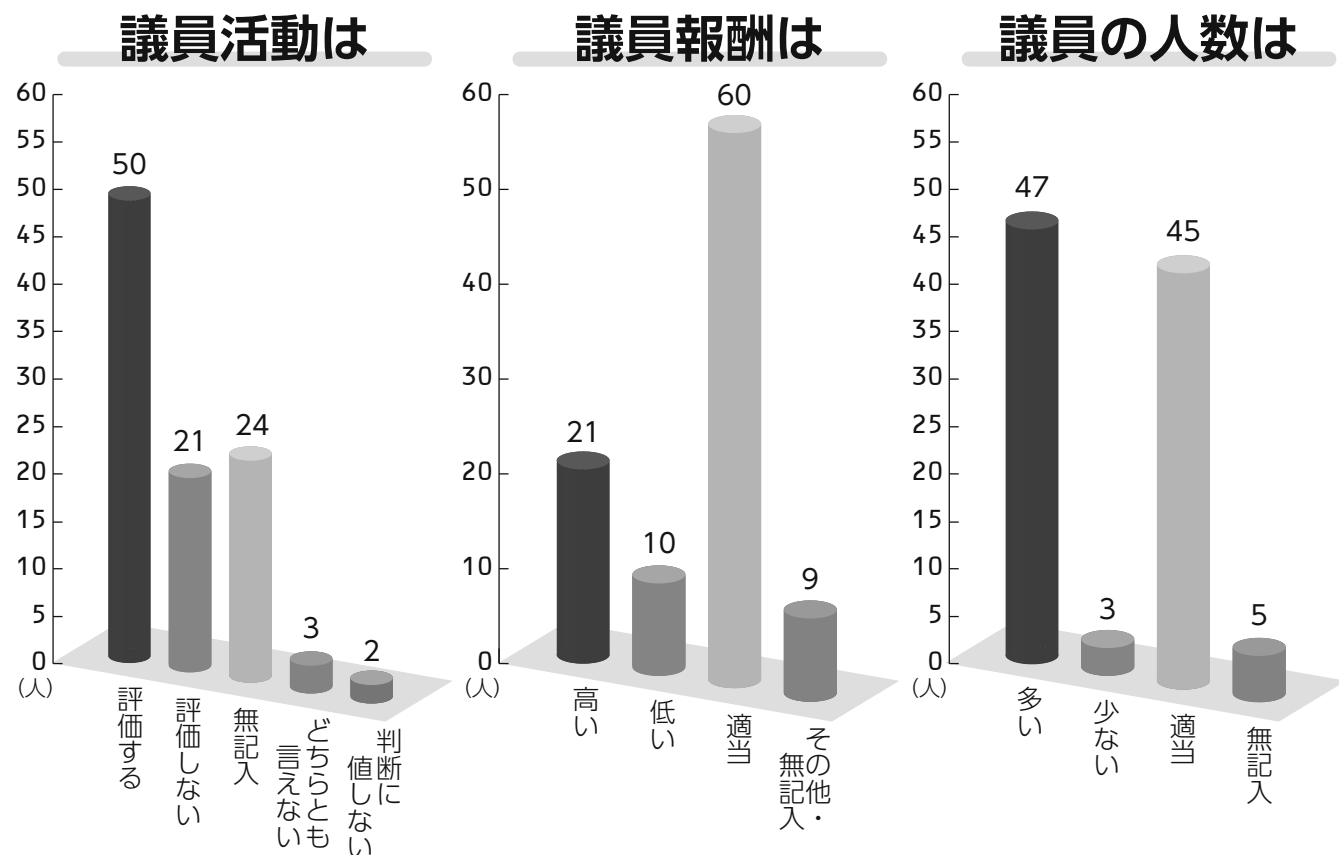
TPP交渉に関する意見書

関係国との交渉の状況等について、国民に対し十分な情報提供と明確な説明を行い、交渉参加に当たっては、国益を守りぬき、農林水産分野の聖域を確保するよう全力を尽くす方針を堅持し、農産品重要5分野の関税撤廃が除外出来ない場合は、TPP交渉から撤退するよう強く要望する。

提案者 神石高原町議会議員 木野山孝志

賛成者 神石高原町議会議員 片山元八郎

アンケートにご協力いただき 貴重なご意見ありがとうございました



おもなご意見

- ★報酬は低いと思う。
- ★次世代の若者でも立候補し、生業として活動できる金額が必要と思う。
- ★議員の質が問題で、各々自分で考えれば良い。
- ★適当。生活給ではないはず。
- ★町の人口が減少している中、議員定数削減は当然。
- ★議員定数削減により人口の少ない地域から議員選出が難しくなるので配慮が必要と思う。
- ★12人で良いと思う。

今後の取り組み

議会では、皆様から議員活動や議員定数・議員報酬などについてご意見を頂くためアンケート調査を実施しました。回答者は58人と必ずしも多いとは思えませんが、議会活動に対して貴重なご意見をたくさん頂きました。

議員定数・報酬については、昨年からの議員の研修会などで調査・研究を行っています。

6月議会で、「議員定数及び報酬調査特別委員会」（仮称）を設置して、皆様のご意見やアンケート調査の意見などを参考にしながら協議を進め、12月議会では結論を出す予定です。

第3回議会報告会を開催

日時と場所

5月11日(月) 三和公民館
 5月12日(火) じんせきの里
 5月13日(水) 陽光の里文化ホール
 5月14日(木) 油木山村開発センター

時間

19時～21時(すべての会場)

テーマ

- 6次産業化
- 神石牛ブランド
- 有害鳥獣対策
- 子育て支援
- 町立病院
- 油木高校支援
- ふるさと納税



皆様の声をお聞かせ下さい。
多数のご参加をお待ちしています。

まちの声

多数のご意見ありがとうございました。
ご意見にお答えします。

○充実した環境で子育てができるようにハード面・ソフト面で支援して頂きたい。
(50歳・男性)

○身近な人たちが一人また一人と姿が消えていく。やがては、我が身かと…？心細い昨今となりました。子ども達の声も聞けない。人口減少に歯止めはないのでしょうか。議会だより・議会放映は楽しみにしています。神石高原町の繁栄を感謝の気持ちで心より願っています。(73歳・女性)

○議長さんの新年の挨拶にありました「若者の雇用の場の確保、企業の農業の確立など神石高原町が持続可能な施策に取り組みが必要だと考えておる」と、議員の皆さんで真剣に取り組んでもらいたいと思います。(79歳・女性)

○人口減少に地域として歯止めをかけるため、住みよい町づくり、豊かな地域の良さを大切に一人でも元気で生活できる事、地域みんなで助け合える事。
(63歳・女性)

◎人口減少問題は非常に大きな問題であると考えております。子育て支援も充実を図る事も重要であると思います。それをふまえ、地方総合戦略策定は、今後町の行方が決まるものだと思います。議会と致しましては皆様のご意見をしっかりと受け止め、ご期待に添えるように努力します。

第23回議会クイズ当選者

- 神石地区 妹尾 正弘さん
- 豊松地区 油野木宗子さん
- 神石地区 竹安さよ子さん
- 三和地区 瀬尾 ヨリさん
- 神石地区 山本 信子さん

元気なグループ紹介だよ

神石体協 「ずーっと青春」 ママさんバレーボールチーム



バレーボール好きな方、私たちと一緒に汗をながしませんか。
主将 圓道裕美

神石体協は、創部40年以上の歴史あるバレーボールチームです。
広島県北部ママさんバレーボール連盟に登録して、月1回のペースで大会に参加しております。
練習は毎週金曜日夜8時から10時までとし、小中学生と一緒に練習をしたり、近隣チームと練習試合や、油木高校バレー部との交流試合なども行いながら、北部地区優勝に向けて頑張っております。
過去には優勝経験もあり、戦績は勝率5割です。
試合後の「たまちゃん」での反省会は、しっかりとその日の試合を振り返り、次の試合への原動力となっているようです。
地域を問わずバレー好きなメンバーが集まり出産・育児・家事・仕事をこなす、何より家族の理解と協力を得ながら、「ずーっと青春 60歳過ぎて現役」をモットーに、バレーボールを楽しみたいと、皆さんの笑顔がキラキラ輝いていました。

第24回 議会クイズ

《クイズ》空欄に適切な言葉をいれてください。

- 〇〇のまち
- 3月補正 まち・〇〇・しごと創生事業
- 一般質問 〇〇〇〇への思いは
- 追跡 〇〇〇の充実強化のために
- ママさんバレーボールチーム 〇〇〇〇

《ヒント》

議会広報をよく読んでね。

《応募方法》

ハガキに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢 議会への要望・ご意見なども記入してください。
正解者多数の場合は厳正な抽選により、5人の方に1000円分のやまなみ商品券をお送りいたします。
応募は、1人・1通に限らせていただきます。

《あて先》〒720-1522
神石高原町小島二〇二五神石高原町議会事務局「第24回議会クイズ係宛」

《締め切り》5月11日(月)消印有効

《個人情報取り扱いについて》
ご記入いただきました個人情報、賞品発送および「まちの声」などの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか次回の定例会は6月です
日程は告知放送などでお知らせします 一般質問はケーブルテレビで放送します

編集後記

小中学校の卒業式や入学式に来賓として参加する機会が多いのですが、入学する子どもたちを見るたびに何十年前の自分のことを思い出します。
日々の忙しさに追われる毎日ですが、その時の夢と希望と新鮮な気持ちは今でも必要でちやいけなものです。
今後とも議会広報のご愛読をよろしくお願ひします。(赤木)

議会広報常任委員会

- 委員長 横山 素子
- 副委員長 赤木 俊二
- 委員 橋本 輝久
- 委員 横尾 正文



4人の新入生を迎えた豊松小学校

■発行／神石高原町議会 ■編集／議会広報常任委員会

発行責任者 議長 藤田晃己
住所／広島県神石郡神石高原町小島二〇二五
TEL 0847-89-3340
FAX 0847-85-4201